

2014年度のCERCの活動について

2011年1月に発足した宗教文化教育推進センター（通称CERC）は、3年を1期としてその活動を区切っている。そのため本報告の中心をなす2014年度は、第2期が始動した年度となる。2013年度までの活動報告は、『日本文化研究所年報』第7号を参照されたい。

CERC業務は主に2つあり、宗教文化士の認定に関わるものと、宗教文化教育の充実に関わるものとに分けられる。前者においては、2014年度末までに宗教文化士認定試験が7回行われ、受験申請者総数302名のなかから186名が宗教文化士に認定された。後者においては、2011～2014年度科学研究費補助金基盤研究（B）「宗教文化教育の教材に関する総合研究」（研究代表者・井上順孝國學院大學教授）と密に連携を行い、これから宗教文化を学ぶ人にも、また宗教文化士の資格取得後にも役立つような教材の開発を続けている。

以下、CERCの宗教文化士の認定に関わる業務として、(1)宗教文化士認定試験の実施報告を行う。そして宗教文化教育の充実に関わる業務として、(2)宗教文化士に対するサポート体制と、(3)宗教文化教育推進のための教材作成について報告し、今後の課題と展望を提示したい。

(1) 宗教文化士認定試験の実施報告

第6回認定試験は、2014年6月29日（日）に行われた。試験会場は東北大学・國學院大學・皇學館大学・関西学院大学・龍谷大学・天理大学の6ヶ所である。受験者は36名、合格者は27名であった。

続く第7回認定試験は、同年11月16日（日）に國學院大學と関西学院大学の2ヶ所で行われた。受験者は21名、合格者は16名であった。これまでの試験問題と解答、および結果はCERCのWebページ上で公開されている。

また、宗教文化士は2013年度までの25大学に加え、愛知学院大学・相愛大学・東京外国語大学の3大学から新たに輩出された。宗教文化士制度の認知が徐々に広がっていることがわかるだろう。

(2) 宗教文化士へのサポートについて

CERCでは、宗教文化士の資格取得後も宗教文化に触れ続けるサポートの一環として、「CERCメルマガ」を年に4回発行している。このメルマガでは、講演会やシンポジウムの紹介のほか、「最新のニュースと解説」を提供しており、宗教文化士は最新の宗教文化に触れ続けることができる。2014年度末時点で、メルマガは11号まで発行された。

さらに、受動的にニュースを受け取るだけでなく、宗教文化士には能動的に疑問点などを質問する場が提供されている。それが、CERCのWebページに作られた「宗教文化士専用掲示板」である。宗教文化士が日常で起こった疑問を質問し、専門家がそれに対して回答を行う。この掲示板でのやりとりは他の宗教文化士も閲覧することができるため、知識の共有が可能となっている。

(3) 宗教文化教育推進のための教材作成について

認定試験時に行うアンケートで「今後提供

して欲しい教材」を問うと、ほぼ必ず、書籍の形で参照することのできる教材を希望する声が挙がってきた。宗教文化士認定試験に関連の深いテキストとしては、2013年度までに井上順孝編『要点解説 90分でわかる! ビジネスマンのための「世界の宗教」超入門』(東洋経済新報社、2013年)が刊行されている。2014年度はそれに加え、櫻井義秀・平藤喜久子編『よくわかる宗教学』(ミネルヴァ書房)が刊行された。同書の特徴の一つは、「宗教文化の地誌や宗教史を広範に扱っているので、宗教文化士認定試験の範囲をおおよそカバーしたものとなっていること」(ii頁)であり、企画段階から教材としての性質を強くにらんで編まれている。また同書では、井上順孝により「宗教を学ぶとは——宗教文化士」という項で宗教文化教育の意義が説かれ、CERCの紹介もなされている。巻末には「宗教文化士試験問題例と解説」が付されており、各試験から抜粋された問題によって、認定試験に触れることが可能になっている。

アンケートから「『宗教文化士』について、何で知りましたか?」を確認すると、「大学の教員から聞いた」あるいは「大学の掲示物を見た」というものが大多数を占めている。つまり、ひとえにCERCの展開は運営委員・連携委員の先生方による広報活動に支えられてきた。さらに『よくわかる宗教学』の刊行により、宗教文化教育に関心を持ち、CERCの活動をのぞいてみようという読者も増えることが予想される。認定試験の受験申請には大学で関連科目の修得が16単位必要という厳しい条件が存在するので、現状、全ての大学から受験者が集まることは難しいだろう。しかし、時間が多少かかっても、この制度への関心が高まることが期待される。

また、認定試験により特化したテキストへの要望は多い。こうした背景もあり、2015

年度内に過去に出題された問題200問に解説を付した書籍の刊行が予定されている。認定試験において、記号選択式問題は毎回50題が出題されているため、CERCではすでに相当量の問題蓄積が行われてきた。現在も、正答率が3割を切った問題についてはWebページ上に解説が掲載されているが、過去問題集の刊行は、より丁寧な学習を可能にするだろう。精選された200問に解説が施されることによって、現代社会において必要な宗教文化の知識とはどのようなものであるのかを確認できる。過去問題集が認定試験に焦点を当てた書籍であることはもちろんであるが、解説とともに解き進めることによって、宗教知識と日常実践とが架橋されることが期待される。

(4) 課題と展望

CERCの活動が第2期に入り、これまでみた宗教文化士制度の認知の広まりと教材開発の進展は軌道に乗ったといえる。第2期の大きな課題は、宗教文化士資格の更新にあるだろう。資格は取得から5年間の有効期限が設けられており、2016年度より順次更新が始まる。更新のためには、(a) e-learningによる学習、(b) CERC指定の講演会などの聴講とレポート提出、(c) メルマガの記事をもとにしたレポートの提出、(d) 体験に基づくレポートの提出の以上4種から1つまたは複数を選び、計3ポイントが認められることが必要である。更新が認められると、終身資格の「上級宗教文化士」(仮称)が与えられる予定となっている。

資格の更新が大学を卒業した宗教文化士に継続的な学びのインセンティブを与え、日常生活にも役立つ宗教文化理解を持つ契機として役立つことを願いたい。

(今井信治)